

ヘルスケア提供者のためのリソース・アーカイブの構築に関する研究

研究班代表者 橋本明浩¹⁾

分科会議代表研究者 加城貴美子¹⁾, 深澤佳代子¹⁾, 堀 良子¹⁾, 渡辺弘之¹⁾

1) 新潟県立看護大学

An Effective Resource Archives for Health Care Providers

Hashimoto Akihiro¹⁾, Kashiro Kimiko¹⁾, Fukazawa Kayoko¹⁾,

Hori Ryoko¹⁾, Watanabe Hiroyuki¹⁾

1) Department of Nursing, Niigata College of Nursing

キー・ワード：ヘルスケア, 提供者(health care provider), インターネット(Internet),
情報保管庫(archives), データベース(database)

目的

少子高齢社会をむかえ、看護・介護職・運動指導者など、住民のゆたかで健康的な生活をささえるヘルスケア提供者の活躍の場が広がっている。ケア提供者は、治療や介護を必要とする人々に質の高いケアを提供する役割とならんで、人々の健康に対する意識を高めセルフケアを促す役割も担っている。このために、ケア提供者自身の継続学習や自己啓発、さらに住民指導や患者教育に活用できるよい教材や資料が求められている。[1), 2)参照]

そこで、新潟県の福祉、文化特性ニーズの発掘等の作業を通じて地域文化特性に応じたヘルスケアのリソース・アーカイブを構築し、地域ヘルスケア提供者への便宜を図るとともに、提供方法等のヒューマンインターフェースを考慮したユビキダス・アーカイブ (Ubiquitous-Archive) の第1次的な研究を行う。

なお、ここでいうリソース・アーカイブとはヘルスケア提供者の為の教育教材及び住民の自己啓発ならびに患者自身のヘルスケアの必要性に応じて、いつでもどこでも (ユビキダス) 取り出せるアーカイブ (資料庫) をいう。将来的には、マルチメディアを用いてヘルスケアに関わるさまざまな教材や資料を試作し、ビデオ、CD-ROM、DVDなどのパッケージを必要に応じて、いつでも取り出せるインターネット上のアーカイブ (資料庫) をヘルスケア提供者に試供することを考慮したシステムをも目指している。

このために、ヘルスケア提供者に実際に利用してもらい、このリソース・アーカイブに対するニーズ、必要なリソースの内容と形態、効果的な提供方法を明らかにしていくことも最終的な目的としている。このうち、平成14年度には、本研究に必要な初期評価研究として、以下の研究をリソース・アーカイブの対象として作成を開始したのでこれを報告する。

対象・研究方法

ヘルスケア提供者は看護、医療、行政等と多岐にわたり、多種多様な情報を必要とするが、単年度の研究事業では全てを網羅することが不可能である。そこで、リソース・アーカイブの基礎的インフラストラクチャーと試験的なデータ整備を行い、これを評価することを本年度の研究対象とした。

試験的なデータ整備として、要望の高いテーマを精査し、サブテーマとしてコンテンツ作成を行った。サブテーマを表1に与える。

研究結果

各研究テーマの研究結果はそれぞれの報告で詳細を述べるが、このようなリソース・アーカイブの構築は意義深いと考えられる。(詳細は各サブテーマの研究報告参照)

考察

本年度は初年度の基礎的な部分に大きな時間をかけたが、まだ現場のヘルスケア提供者の評価を受けていない。今後、さらにリソース・アーカイブの質的、量的な充実をはかり、外部からの詳細な評価をも視野にいたした研究を検討課題としたい。

参考文献

- 1) 前田樹海他, 当世看護大学学生のインターネット利用事情, 第22回医療情報学連合大会 CD-ROM, CD-ROM 版論文集, 日本医療情報学会, (2002).

2) 厚生労働省, “「インターネット等による医療情報に関する検討会」 報告書”, (2002)

表1 サブテーマ一覧

代表者 氏名・職	研究協力者等	サブテーマ名・概要
教授・加城貴美子	加城貴美子, 高橋初美, 小林美代子, 和田佳子, 笹野京子, 阿部正子, 高塚麻由, 西方真弓, 橋本昭浩, 関川ミサ子, 高橋由美, 高舘陽子, 中島智子, 村山郁子, 小川雅子, 坪井秀和, 市村雅子, 中條美奈子	女性に関する ジェンダーフリー 教育プログラム開発に関する研究 ジェンダーフリー教育・講演を開催し, 調査を行うほか, 高校生を対象とした講演会及び調査報を行いジェンダーフリー教育プログラム開発に必要な基礎的な研究をおこなった
教授・深澤佳代子	小林優子, 山田正実, 上原美樹	新潟県下の救急外来に勤務する看護者の臨床判断能力に関する研究(1) 日本の救急医療の現状では, 十分な知識と技術をもつ看護者の役割が重要であるが, 救急の現場では, 教育の不足, 年齢層の異なる患者への対応の未熟さ, 医師・看護者間の業務の不明確さ等の問題もあり, 実際には救急患者および家族が満足できる看護ケアが提供されていない可能性がある 救急外来における看護力の充実を図り, 社会のニーズを充足させることは救急医療の現場では急務といえる 今回は, 救急外来に勤務する看護者の考えている救急看護の専門性と実際に抱えている現状の問題点について調査を行った
助教授・堀 良子	山本澄子, 熊倉みつ子, 水口陽子, 岡村典子	医療管理が必要な在宅療養者の看護における看護師の看護技術の現状と課題 14年度は「医療管理を要する訪問事例に対する看護職者の看護技術の現状と教育研修ニーズ」と題して質問紙調査を実施した。
講師・ 渡辺弘之	本間弘行	生きにくさを抱える人たちの文化創造 心の病を抱える人たちにとっての文化創造や表現の意味について問題提起を行い, 考える機会を提供し考察を加えた
助教授・橋本明浩	中川泉, 吉山直樹, 中島紀恵子	ヘルケア提供者のためのリソース・アーカイブの構築の基盤作成の基礎的研究 ヘルケア提供者のためのリソース・アーカイブの構築に必要な基盤整備に関する研究を行った 加えて動画像配信に必要な記憶装置等の性能評価等を行い次年度の研究事業の

関係各位

本日配付致しました平成14年度看護研究交流センター事業「活動・研究報告書」の一部について、下記により訂正下さるようお願いいたします。

平成15年6月

新潟県立看護大学看護研究交流センター長

平成14年度看護研究交流センター事業「活動・研究報告書」正誤表

I 目次の次頁「看護研究交流センター地域課題研究費」を下記のとおり訂正します。

- 1 B第2研究班 継続看護における連携システムの構築の配分額を1,615千円を2,500千円とする。
- 2 B第2研究班 富川孝子グループの配分額を380千円を885千円とする。
- 3 B第2研究班の中川泉グループ「パーキンソン病患者の療養実態調査から」を新たに追加し、配分額を380千円とする。
- 4 C第3研究班の次に「D事務管理費」を追加し、配分額を500千円とする。

II 報告書52ページ 表1サブテーマ一覧の教授：加城貴美子のサブテーマ名・概要欄を「ジェンダーフリー教育プログラム開発に関する研究」を「女性に関する教育プログラム開発に関する研究」に訂正する。